



しょうがっこうていがくねん《1・2年生》のみなさんへ

ふゆ休みおすすめ本リスト

登別市立図書館 [2017年版]

	しよめい さくしゃめい しゅつぱんしゃ	ないよう
えほん	<p>「どうするジョージ!」</p>  <p>クリス・ホートン 作 木坂 涼 絵 BL出版</p>	<p>犬のジョージにハリスが「ちょっとでかけてくるけど、ひとりでいいこにしているかい?」といました。「もちろん」と、こたえるジョージですがなにがあってもほんとにいいこにしているかな・・・?</p>
えほん	<p>「ぼくは、チューズデー」</p>  <p>介助犬チューズデーのいちにち イス・カルロス・モンタルパン 文 プレット・ウィッター 文 ダン・ディオ 文 おびか ゆうこ 写真 ほるぶ出版 訳</p>	<p>せんそうでけがをして、まえとおなじくらしがでなくなったルイス。そんなルイスといっしょにでかけたり、たすけてくれたのが、介助犬(かいじょけん)チューズデーでした。介助犬のしごとがわかる、しゃしんえほんです。</p>
えほん	<p>「ほんとに本はやくにたつ」</p>  <p>クロード・ブージュン 文 末松 氷海子 絵 セーラー出版 訳</p>	<p>うさぎのきょうだい本にむちゅうになっていると、キツネがやってきて、ぜったいぜつめい。でも、本にはもうひとつのつかいかたがあったのです。ほんとに、本はやくに立ちます!</p>
えほん	<p>「きみがしらないひみつの三人」</p>  <p>ヘルメ・ハイネ 作 天沼 春樹 絵 徳間書店 訳</p>	<p>三人は、きみの体の中で、生まれたときからはたらいしています。人が生まれてしんでいくまで、あたまとところからだが、どんなふしぎなはたらきをしているのか、やさしくえがいています。</p>
えほん	<p>「おかしなゆき ふしぎなおおり」</p>  <p>片平 孝 写真 ポプラ社 文</p>	<p>ふゆのよる、しんしんとゆきがふりつもり、あさになるとつめたい空気と水が、おかしなかたちのゆきやおおりのせいかいを見ることができます。だいはいりよくなゆきとおおりのせいかいをしゃしんで見ることができます。</p>

	しよめい さくしゃめい しゅつぱんしゃ	ないよう
としょ	<p>「ねえ、おはなしきかせて」</p>  <p>原 京子 作 高橋 和枝 絵 ポプラ社</p>	<p>さいきん、おとうとが生まれていそがしいママは、ゆかにおはなしをよんでくれなくなりました。ある日、ゆかが森でこえを出して本をよんでいると、どうぶつたちがあつまってきた。</p>
としょ	<p>「ていでん★ちゅういほう」</p>  <p>いとう みく 作 細川 貂々 絵 文研出版</p>	<p>かみなりのこわい音がゴロゴロ!バリバリ!とでっかくひびいて、でんきがきえました。いつもいばっているおねえちゃんなのに、ぜんぜんたよりになりません。ていでんのおかげで、かいちゅうでんとうをもって立ちむかう、小さなぼうけんものがたりです。</p>
としょ	<p>「町のゆきだるまのはなし」</p>  <p>たかどの ほうこ 作 本庄 ひさ子 絵 佼成出版社</p>	<p>町を見ているのが大すきなゆきだるまには、もっと大すきなことがありました。それはどこからかながれてくる、ピアノの音をきくことでした。そんなゆきだるまにおてがみがとどきました。</p>
としょ	<p>「てぶくろのふたご」</p>  <p>二宮 由紀子 作 フィリケ えつこ 絵 理論社</p>	<p>ふたごのてぶくろは、リリカちゃんとおでかけするのが大すきです。気よわなマフラーや、なべつかみみたいなミトン、いろいろななままと出あいます。ふゆのおでかけが、たのしみになる本です。</p>
としょ	<p>「くもの糸」</p>  <p>芥川 龍之介 作 深見 春夫 絵 宮川 健郎 編 岩崎書店</p>	<p>じごくにおちたカンダタは、ほかのわるい人たちといっしょに、ちのいけにういたり、しずんだりしました。そこに空からくもの糸がたれてきて、みんなわれさきにとむらがりまがります。</p>